

財務諸表等（民間会計基準準拠）
国際金融等勘定

1. 財務諸表の作成方法について

当行の財務諸表（民間の会計基準に準拠して作成した財務諸表）は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。

ただし、第6期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成16年1月30日内閣府令第5号）附則第2項のただし書きにより、改正前の財務諸表等規則及び銀行法施行規則に基づき作成し、第7期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）は改正後の財務諸表等規則及び銀行法施行規則に基づき作成しております。

本財務諸表は国際協力銀行法（平成11年法律第35号）第41条に定める国際金融等業務にかかる財務諸表であります。

2. 監査証明について

当行は、第6期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）及び第7期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）の国際金融等勘定の財務諸表について、中央青山監査法人の監査証明を受けており、その監査報告書は、財務諸表の直前に掲げております。

3. 連結財務諸表について

当行は、子会社を有していないため連結財務諸表は作成しておりません。

独立監査人の監査報告書

平成18年6月23日

国際協力銀行
総裁 篠沢 恭助 殿

中央青山監査法人

指定社員 公認会計士 細野 康弘
業務執行社員

指定社員 公認会計士 藤井 泰博
業務執行社員

指定社員 公認会計士 佐々木 貴司
業務執行社員

当監査法人は、貴行の委嘱に基づき、「経理の状況」のうち「財務諸表等（民間会計基準準拠）」に掲げられている国際協力銀行における国際金融等勘定の平成17年4月1日から平成18年3月31日までの第7期事業年度の財務諸表、すなわち、国際金融等勘定貸借対照表、国際金融等勘定損益計算書、国際金融等勘定キャッシュ・フロー計算書、国際金融等勘定利益処分計算書及び国際金融等勘定附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、国際協力銀行における国際金融等勘定の平成18年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

国際協力銀行と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(※) 上記の原本は当行が別途保管しております。

財務諸表等

(1)財務諸表

国際金融等勘定貸借対照表

(資産の部)

(金額単位:百万円)

科目	期別	第6期末 (平成17年3月31日)		第7期末 (平成18年3月31日)	
		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
現金預け		106,105	1.08	636,786	6.46
現金預け		6		5	
現金預け		106,098		636,781	
有価証券		103	0.00	400	0.00
株		12		12	
その他の証券		90		387	
貸出金	1,2,3,4,5,6,7,9	8,446,621	85.95	8,080,007	81.92
証書貸付		8,446,621		8,080,007	
その他の資産		523,350	5.32	205,162	2.08
前未払費用		654		354	
金融派生商品		95,391		81,840	
繰延ヘッジ損失	11	406,902		96,560	
繰延ヘッジ損失		-		3,912	
繰延ヘッジ損失	14	18,056		19,892	
繰延ヘッジ損失		2,346		2,601	
不動産	12	19,184	0.20	18,901	0.19
土地建物		18,838		18,358	
建設仮払		177		362	
保証金		169		180	
債券繰延資産		3,711	0.04	4,227	0.04
債券発行差		2,180		2,532	
債券発行費		1,530		1,694	
支払承諾見返		899,389	9.15	1,066,099	10.81
貸倒引当金		171,153	1.74	147,963	1.50
資産の部合計		9,827,312	100.00	9,863,621	100.00

(負債及び資本の部)

(金額単位:百万円)

科目	期別	第6期末 (平成17年3月31日)		第7期末 (平成18年3月31日)	
		金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
債券発行	10	1,751,254	17.82	2,043,963	20.72
債券発行		1,751,254		2,043,963	
借入金		5,359,276	54.54	4,906,569	49.74
借入金		5,359,276		4,906,569	
その他の負債		206,716	2.10	189,951	1.93
前未払費用		46,026		45,310	
金融派生商品		4,649		5,041	
繰延ヘッジ利益	11	20,484		137,705	
繰延ヘッジ利益		133,151		-	
繰延ヘッジ利益		2,404		1,894	
賞与引当金		595	0.01	632	0.01
退職給付引当金		10,711	0.11	10,213	0.10
支払承諾		899,389	9.15	1,066,099	10.81
負債の部合計		8,227,942	83.73	8,217,430	83.31
資本		985,500	10.03	985,500	9.99
国際金融等勘定資本金		985,500		985,500	
利益剰余金	13	613,869	6.24	660,690	6.70
国際金融等勘定準備金		676,258		709,148	
当期未処理損失		62,388		48,457	
資本の部合計		1,599,369	16.27	1,646,190	16.69
負債及び資本の部合計		9,827,312	100.00	9,863,621	100.00

国際金融等勘定損益計算書

(金額単位:百万円)

科目	期 別		第6期 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)		第7期 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	
	金額	百分比(%)	金額	百分比(%)	金額	百分比(%)
経常収益	254,430	100.00	331,248	100.00		
資金運用収益	235,525		319,119			
貸出金利息	209,527		312,822			
預け金利息	2,458		6,297			
金利スワップ受入利息	23,538		-			
役員取引等収益	5,648		8,097			
その他の役員収益	5,648		8,097			
その他の業務収益	13,130		3,840			
外国為替売買益	1,640		3,606			
金融派生商品収益	11,353		-			
その他の業務収益	136		234			
その他の経常収益	125		191			
その他の経常収益	125		191			
経常費用	238,413	93.70	253,874	76.64		
資金調達費用	180,620		226,059			
債券利息	63,259		63,522			
借入金利息	117,361		91,355			
金利スワップ支払利息	-		71,181			
役員取引等費用	3,524		3,212			
その他の役員費用	3,524		3,212			
その他の業務費用	1,856		1,275			
債券発行費償却	990		1,053			
その他の業務費用	866		221			
営業経常費用	14,350		14,140			
その他経常費用	38,060		9,186			
貸倒引当金繰入額	38,039		9,158			
貸出金償却	11		-			
その他の経常費用	10		28			
経常利益	16,017	6.29	77,373	23.36		
特別利益	333	0.13	2,358	0.71		
動産不動産処分益	4		2			
償却債権取立益	329		2,355			
特別損失	7	0.00	20	0.01		
動産不動産処分損失	7		20			
当期純利益	16,343	6.42	79,711	24.06		
前期繰越損失	78,731		128,168			
当期末処理損失	62,388		48,457			

国際金融等勘定キャッシュ・フロー計算書

(金額単位:百万円)

期 別	第6期 (自 平成16年4月 1日 至 平成17年3月31日)	第7期 (自 平成17年4月 1日 至 平成18年3月31日)
科 目		
. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
当期純利益	16,343	79,711
減価償却費	942	955
貸倒引当金の増減()額	37,285	23,190
賞与引当金の増減()額	26	37
退職給付引当金の増減()額	94	497
資金運用収益	235,525	319,119
資金調達費用	180,620	226,059
有価証券関連損益()	7	26
為替差損益()	60,049	334,982
動産不動産処分損益()	2	18
貸出金の純増()減	376,086	760,051
債券の純増減()	179,225	229,542
借入金の純増減()	667,742	452,707
預け金(現金同等物を除く)の純増()減	15,610	251,814
資金運用による収入	248,002	332,126
資金調達による支出	186,767	227,148
その他	71,350	290,453
営業活動によるキャッシュ・フロー	55,895	309,522
. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	111	309
有価証券の売却等による収入	-	1
動産不動産の取得による支出	114	440
動産不動産の売却による収入	26	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	199	737
. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
国庫納付の支払額	36,547	34,726
財務活動によるキャッシュ・フロー	36,547	34,726
. 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
. 現金及び現金同等物の増減額	92,642	274,058
. 現金及び現金同等物の期首残高	119,325	26,683
. 現金及び現金同等物の期末残高	26,683	300,742

国際金融等勘定利益処分計算書

(金額単位:百万円)

科目	期別	第6期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)	第7期 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
		金額	金額
当 期 未 処 理 損 失		62,388	48,457
国 際 金 融 等 勘 定 準 備 金 繰 入 額		32,889	36,087
国 庫 納 付		32,889	36,087
次 期 繰 越 損 失		128,168	120,633

(注) 当行は国際協力銀行法(平成11年法律第35号)第44条第5項の規定に基づき、国際協力銀行法施行令(平成11年政令第266号)第8条の規定に基づき計算された国際金融等勘定の利益金の一部を国庫に納付しておりますが、国庫への納付については利益金の処分として、会計処理しております。また、国際金融等勘定準備金繰入額は、国際協力銀行法第44条第1項の規定に基づき繰入を行うものであります。

従って、次期繰越損失は、当期末処理損失に、国際協力銀行の関係法令に定める利益処分を加味したものとなっております。

重要な会計方針

	第 6 期 (自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日)	第 7 期 (自 平成 17 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 3 月 31 日)
1. 勘定の区分及び会計処理の方法	当行の勘定は、国際協力銀行法（平成 11 年法律第 35 号）第 41 条により、国際金融等業務と海外経済協力業務のそれぞれの業務ごとに経理を区分し、それぞれ勘定を設けて整理することとされており、国際金融等勘定と海外経済協力勘定の 2 つに区分経理しております。区分経理においては、それぞれの業務に直結する取引についてはそれぞれの勘定に、共通経費等については一定の配分率にてそれぞれの勘定に按分し、計上しております。	同 左
2. 有価証券の評価基準及び評価方法	有価証券のうち保有しているものは、すべて時価のない「その他有価証券」に分類され、移動平均法による原価法により行っております。	同 左
3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。	同 左
4. 固定資産の減価償却の方法	(1) 動産不動産 動産不動産は、定率法(ただし、平成 10 年 4 月 1 日以後に取得した建物(建物附属設備を除く。))については定額法)を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 建物：38 年～50 年 動産：2 年～20 年 (2) ソフトウェア 自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5 年)に基づく定額法により償却しております。	(1) 動産不動産 同 左 (2) ソフトウェア 同 左
5. 繰延資産の処理方法	債券発行差金は債券の償還期限までの期間に対応し、債券発行費は商法の規定に準じて 3 年間で償却しております。	同 左
6. 外貨建て資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。	同 左
7. 引当金の計上基準	(1) 貸倒引当金 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破	(1) 貸倒引当金 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破

	第6期 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	第7期 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
	<p>綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等に起因して生ずる損失見込額を特定海外債権引当勘定として計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は16,824百万円であります。</p>	<p>綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等に起因して生ずる損失見込額を特定海外債権引当勘定として計上しております。</p> <p>すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。</p> <p>なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は5,489百万円であります。</p>
	<p>(2) 賞与引当金</p> <p>賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。</p> <p>賞与引当金には、役員に係る引当金が含まれております。</p>	<p>(2) 賞与引当金</p> <p>同 左</p>
	<p>(3) 退職給付引当金</p> <p>退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、数理計算上の差異の損益処理方法は以下のとおりであります。</p> <p>数理計算上の差異：その発生年度に一括して損益処理しております。</p> <p>また、退職給付引当金には、役員に係る引当金が含まれております。</p>	<p>(3) 退職給付引当金</p> <p>同 左</p>
8. リース取引の処理方法	<p>リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。</p>	<p>同 左</p>

	第6期 (自 平成16年4月1日 至 平成17年3月31日)	第7期 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)
9. ヘッジ会計の方法	<p>(イ) 金利リスク・ヘッジ</p> <p>ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。</p> <p>ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段---金利スワップ ヘッジ対象---貸出金、債券</p> <p>ヘッジ方針 金利リスクをヘッジするため、対象債権・債務の範囲内でヘッジを行っております。</p> <p>ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュフロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュフロー変動の累計等を比較し、両者の変動額等を基礎として判断しております。</p> <p>(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ 外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号。以下「業種別監査委員会報告第25号」という)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。</p>	<p>(イ) 金利リスク・ヘッジ 同 左</p> <p>(ロ) 為替変動リスク・ヘッジ 同 左</p>
10. 消費税等の会計処理	<p>消費税及び地方消費税(以下、消費税等という。)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし動産不動産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。</p>	同 左
11. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	<p>キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。</p>	同 左

財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

<p>第 6 期 (自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日)</p>	<p>第 7 期 (自 平成 17 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 3 月 31 日)</p>
<p>_____</p>	<p>(固定資産の減損に係る会計基準) 固定資産の減損に係る会計基準(「固定資産の減損に係る会計基準の設定に関する意見書」(企業会計審議会平成 14 年 8 月 9 日))及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針(企業会計基準適用指針第 6 号平成 15 年 10 月 31 日)」を当事業年度から適用しております。これによる当期純利益への影響はありません。</p>

注記事項

(貸借対照表関係)

第 6 期末 (平成 17 年 3 月 31 日)	第 7 期末 (平成 18 年 3 月 31 日)
<p>1. 貸出金のうち、破綻先債権額に該当する債権はありません。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、会社更生法又は金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更生手続開始の申立て、民事再生法の規定による再生手続開始の申立て、破産法の規定による破産手続開始の申立て、商法の規定による整理開始又は特別清算開始の申立て又は手形交換所による取引停止処分を受けた債務者に対する貸出金であります。</p> <p>2. 貸出金のうち、延滞債権額は 265,797 百万円であります。</p> <p>なお、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>3. 貸出金のうち、3 ヶ月以上延滞債権額は 2,714 百万円であります。</p> <p>なお、3 ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から 3 月以上延滞している貸出金で、破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 325,428 百万円であります。</p> <p>なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権及び 3 ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>5. 破綻先債権額、延滞債権額、3 ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 593,940 百万円であります。</p> <p>なお、上記 1. から 5. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>6. 国際収支状況の悪化等により、公的対外債務(債権者が国、貿易保険、輸出信用機関等の公的機関である債務)の返済が一時的に困難となった債務国に対しては、債権国会議(パリクラブ)の場において債務繰延べ(リスケジュール)が国際的に合意され、債務国政府に対する一時的な流動性支援(国際協調の枠組みの下での国際収支支援)が実施されます。この一時的な流動性支援の中で、債務国は IMF (国際通貨基金) との間で合意された経済改革プログラムを実施し、債務返済が継続されていくこととなります。当行の外国政府等に対する債権のうち、平成 16 年度末時点で、</p>	<p>1. 貸出金のうち、破綻先債権額は 47,333 百万円あります。</p> <p>なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、会社更生法又は金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更生手続開始の申立て、民事再生法の規定による再生手続開始の申立て、破産法の規定による破産手続開始の申立て、商法の規定による整理開始又は特別清算開始の申立て又は手形交換所による取引停止処分を受けた債務者に対する貸出金であります。</p> <p>2. 貸出金のうち、延滞債権額は 156,454 百万円あります。</p> <p>なお、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。</p> <p>3. 貸出金のうち、3 ヶ月以上延滞債権額は 2,714 百万円あります。</p> <p>なお、3 ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から 3 月以上延滞している貸出金で、破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>4. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は 141,007 百万円あります。</p> <p>なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻先債権、延滞債権及び 3 ヶ月以上延滞債権に該当しないものであります。</p> <p>5. 破綻先債権額、延滞債権額、3 ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は 347,510 百万円あります。</p> <p>なお、上記 1. から 5. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。</p> <p>6. 国際収支状況の悪化等により、公的対外債務(債権者が国、貿易保険、輸出信用機関等の公的機関である債務)の返済が一時的に困難となった債務国に対しては、債権国会議(パリクラブ)の場において債務繰延べ(リスケジュール)が国際的に合意され、債務国政府に対する一時的な流動性支援(国際協調の枠組みの下での国際収支支援)が実施されます。この一時的な流動性支援の中で、債務国は IMF (国際通貨基金) との間で合意された経済改革プログラムを実施し、債務返済が継続されていくこととなります。当行の外国政府等に対する債権のうち、平成 17 年度末時点で、</p>

第6期末
(平成17年3月31日)

パリクラブにおいて債務繰延べ合意がなされている債権の繰延べ対象元本残高は、487,301百万円となっています。

かかる債権については、当行の公的債権者としての特性があるものの、民間金融機関との比較を容易にする観点から、債務者区分が要注意先となっている債務国向け債権のうち、債務繰延べ合意がなされている債権については、3ヵ月以上延滞債権に該当するものを除き、原則として貸出条件緩和債権として分類しております。上記4.に掲げた貸出条件緩和債権額のうち、かかる債権額は、77,863百万円(うち繰延べ対象元本残高は74,580百万円)となっています。

7.平成16年12月のスマトラ沖大地震及びインド洋津波の被災国に関し、その被害の復旧・復興を支援する観点から、公的債権について被災国から要請がある場合は当面の債務支払猶予(モトリアム)を認めることにつき、我が国を含む主要債権国は、債権国会議(パリクラブ)で合意しています。具体的には、被災国の期日どおりの債務支払を平成17年12月31日まで期待しないこと及び支払猶予された額につき1年間の据置期間を含む5年間の支払とすることを主要債権国は表明しており、要請のあった被災国において当該条件を受け入れるかどうか検討しているところです。

平成16年度末時点で、パリクラブに対しモトリアムを要請してきた被災国はインドネシア及びスリランカの2カ国ですが、上記のとおりパリクラブが提示した条件を受け入れるかどうか検討しているところであるため、支払猶予対象額は確定しておりません。なお、当行の外国政府等に対する債権のうち、当該要請のあった被災国向けの平成16年度末時点での債権残高は、555,470百万円となっております。

本措置に関する債権については、国際的な枠組みの下で、債務者の返済能力には影響がなく、今次災害の被害からの復旧・復興を支援する観点から、一時的に債務の支払を猶予するとの方針にて一致したことに基づき、貸出条件の変更を行っていることも踏まえ、上記1.から5.に掲げた債権には含めておりません。

8.担保に供している資産はありません。
9.当行の貸付は長期にわたるものが多く、一般に、顧客から貸付契約に定める資金用途に該当する融資実行の申し出を受けた場合に、貸付契約上規定された要件を満たしていることを確認のうえで、当行は、顧客の資金需要のうち一定の範囲内でかつ貸付残高が承諾額の範囲までとなる一定額の資金を貸し付けることを約しております。これらの契約に係る融資未実行残高は1,212,442百万円であります。

10.下記の債券については、銀行等との間に締結した債券の信託型デット・アサンプション契約(債務履行引受契約)に基づき債務を譲渡しております。従って、同債券に係る譲渡債務と同契約による支払金額を相殺消去しておりますが、同債券の債権者に対する当行の債券償還義務は債券償還時まで存続します。

第7期末
(平成18年3月31日)

パリクラブにおいて債務繰延べ合意がなされている債権の繰延べ対象元本残高は、417,943百万円となっています。

かかる債権については、当行の公的債権者としての特性があるものの、民間金融機関との比較を容易にする観点から、債務者区分が要注意先となっている債務国向け債権のうち、債務繰延べ合意がなされている債権については、3ヵ月以上延滞債権に該当するものを除き、原則として貸出条件緩和債権として分類しております。上記4.に掲げた貸出条件緩和債権額のうち、かかる債権額は、20,470百万円(うち繰延べ対象元本残高は10,890百万円)となっています。

7.平成16年12月のスマトラ沖大地震及びインド洋津波の被災国に関し、その被害の復旧・復興を支援する観点から、公的債権について被災国から要請がある場合は当面の債務支払猶予(モトリアム)を認めることにつき、我が国を含む主要債権国は、債権国会議(パリクラブ)で合意しています。具体的には、被災国の期日どおりの債務支払を平成17年12月31日まで期待しないこと及び支払猶予された額につき1年間の据置期間を含む5年間の支払とすることを主要債権国は表明しており、平成18年3月末時点で、パリクラブに対しモトリアムを要請してきた被災国はインドネシア及びスリランカの2カ国です。当該要請のあった被災国向けの本措置による支払猶予対象額は、9,410百万円となっております。

本措置に関する債権については、国際的な枠組みの下で、債務者の返済能力には影響がなく、今次災害の被害からの復旧・復興を支援する観点から、一時的に債務の支払を猶予するとの方針にて一致したことに基づき貸出条件の変更を行っていることも踏まえ、上記1.から5.に掲げた債権には含めておりません。

8. 同左
9.当行の貸付は長期にわたるものが多く、一般に、顧客から貸付契約に定める資金用途に該当する融資実行の申し出を受けた場合に、貸付契約上規定された要件を満たしていることを確認のうえで、当行は、顧客の資金需要のうち一定の範囲内でかつ貸付残高が承諾額の範囲までとなる一定額の資金を貸し付けることを約しております。これらの契約に係る融資未実行残高は1,388,562百万円であります。

10.下記の債券については、銀行等との間に締結した債券の信託型デット・アサンプション契約(債務履行引受契約)に基づき債務を譲渡しております。従って、同債券に係る譲渡債務と同契約による支払金額を相殺消去しておりますが、同債券の債権者に対する当行の債券償還義務は債券償還時まで存続します。

第 6 期末
(平成 17 年 3 月 31 日)

銘 柄	譲渡金額(百万円)
第 5 回国際協力銀行債券	50,000
第 7 回国際協力銀行債券	60,000
第 9 回国際協力銀行債券	50,000

1 1 .ヘッジ手段に係る損益又は評価差額は、純額で「繰延ヘッジ利益」として計上しております。なお、上記相殺前の繰延ヘッジ損失の総額は 2,458 百万円、繰延ヘッジ利益の総額は 135,610 百万円であります。

1 2 . 動産不動産の減価償却累計額
14,081 百万円

1 3 . 利益剰余金について
当行は国際協力銀行法第 44 条により、国際金融等勘定については準備金を積み立てております。

1 4 . 概算国庫納付について
当行は国際協力銀行法第 44 条により国際金融等勘定の利益金の一部を国庫に納付していますが、当年度中に概算にて国庫に納付した金額については、貸借対照表上においてその他資産として 18,056 百万円を資産計上しております。

第 7 期末
(平成 18 年 3 月 31 日)

銘 柄	譲渡金額(百万円)
第 5 回国際協力銀行債券	50,000
第 7 回国際協力銀行債券	60,000
第 9 回国際協力銀行債券	50,000
第 11 回国際協力銀行債券	50,000

1 1 .ヘッジ手段に係る損益又は評価差額は、純額で繰延ヘッジ損失として「その他資産」に含めて計上しております。なお、上記相殺前の繰延ヘッジ損失の総額は 44,734 百万円、繰延ヘッジ利益の総額は 40,822 百万円であります。

1 2 . 動産不動産の減価償却累計額
14,446 百万円

1 3 . 同 左

1 4 . 概算国庫納付について
当行は国際協力銀行法第 44 条により国際金融等勘定の利益金の一部を国庫に納付していますが、当年度中に概算にて国庫に納付した金額については、貸借対照表上においてその他資産として 19,892 百万円を資産計上しております。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

第 6 期 (自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日)	第 7 期 (自 平成 17 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 3 月 31 日)
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
平成 17 年 3 月 31 日現在	平成 18 年 3 月 31 日現在
現金預け金勘定 106,105 百万円	現金預け金勘定 636,786 百万円
当座預け金(日銀を除く)・ 普通預け金・定期性預け金 79,421 百万円	当座預け金(日銀を除く)・ 普通預け金・定期性預け金 336,044 百万円
現金及び現金同等物 26,683 百万円	現金及び現金同等物 300,742 百万円

(リース取引関係)

第 6 期 (自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日)	第 7 期 (自 平成 17 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 3 月 31 日)																																																																																				
<p>1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">取得価額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">390 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">313 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">704 百万円</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">減価償却累計額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">94 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">94 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">188 百万円</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">期末残高相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">296 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">219 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">516 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・未経過リース料期末残高相当額 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年内</td> <td style="text-align: right;">166 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年超</td> <td style="text-align: right;">356 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">522 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・当期の支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">142 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">136 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">10 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・減価償却費相当額の算定方法 <p style="padding-left: 20px;">リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利息相当額の算定方法 <p style="padding-left: 20px;">リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未経過リース料 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年内</td> <td style="text-align: right;">1 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年超</td> <td style="text-align: right;">2 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">4 百万円</td> </tr> </table>	取得価額相当額		動産	390 百万円	その他	313 百万円	合計	704 百万円	減価償却累計額相当額		動産	94 百万円	その他	94 百万円	合計	188 百万円	期末残高相当額		動産	296 百万円	その他	219 百万円	合計	516 百万円	1 年内	166 百万円	1 年超	356 百万円	合計	522 百万円	支払リース料	142 百万円	減価償却費相当額	136 百万円	支払利息相当額	10 百万円	1 年内	1 百万円	1 年超	2 百万円	合計	4 百万円	<p>1. リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">取得価額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">387 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">313 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">701 百万円</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">減価償却累計額相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">196 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">156 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">352 百万円</td> </tr> </table> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">期末残高相当額</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">動産</td> <td style="text-align: right;">191 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他</td> <td style="text-align: right;">156 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">348 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・未経過リース料期末残高相当額 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年内</td> <td style="text-align: right;">167 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年超</td> <td style="text-align: right;">188 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">356 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・当期の支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">175 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">167 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">9 百万円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・減価償却費相当額の算定方法 <p style="padding-left: 20px;">リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利息相当額の算定方法 <p style="padding-left: 20px;">リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未経過リース料 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年内</td> <td style="text-align: right;">4 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">1 年超</td> <td style="text-align: right;">1 百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合計</td> <td style="text-align: right;">5 百万円</td> </tr> </table> <p>(減損損失について)</p> <p style="padding-left: 20px;">リース資産に配分された減損損失はありません。</p>	取得価額相当額		動産	387 百万円	その他	313 百万円	合計	701 百万円	減価償却累計額相当額		動産	196 百万円	その他	156 百万円	合計	352 百万円	期末残高相当額		動産	191 百万円	その他	156 百万円	合計	348 百万円	1 年内	167 百万円	1 年超	188 百万円	合計	356 百万円	支払リース料	175 百万円	減価償却費相当額	167 百万円	支払利息相当額	9 百万円	1 年内	4 百万円	1 年超	1 百万円	合計	5 百万円
取得価額相当額																																																																																					
動産	390 百万円																																																																																				
その他	313 百万円																																																																																				
合計	704 百万円																																																																																				
減価償却累計額相当額																																																																																					
動産	94 百万円																																																																																				
その他	94 百万円																																																																																				
合計	188 百万円																																																																																				
期末残高相当額																																																																																					
動産	296 百万円																																																																																				
その他	219 百万円																																																																																				
合計	516 百万円																																																																																				
1 年内	166 百万円																																																																																				
1 年超	356 百万円																																																																																				
合計	522 百万円																																																																																				
支払リース料	142 百万円																																																																																				
減価償却費相当額	136 百万円																																																																																				
支払利息相当額	10 百万円																																																																																				
1 年内	1 百万円																																																																																				
1 年超	2 百万円																																																																																				
合計	4 百万円																																																																																				
取得価額相当額																																																																																					
動産	387 百万円																																																																																				
その他	313 百万円																																																																																				
合計	701 百万円																																																																																				
減価償却累計額相当額																																																																																					
動産	196 百万円																																																																																				
その他	156 百万円																																																																																				
合計	352 百万円																																																																																				
期末残高相当額																																																																																					
動産	191 百万円																																																																																				
その他	156 百万円																																																																																				
合計	348 百万円																																																																																				
1 年内	167 百万円																																																																																				
1 年超	188 百万円																																																																																				
合計	356 百万円																																																																																				
支払リース料	175 百万円																																																																																				
減価償却費相当額	167 百万円																																																																																				
支払利息相当額	9 百万円																																																																																				
1 年内	4 百万円																																																																																				
1 年超	1 百万円																																																																																				
合計	5 百万円																																																																																				

(有価証券関係)

貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金等を含めて記載しております。

前事業年度

1. 売買目的有価証券 (平成17年3月31日現在)
該当ありません。
2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの (平成17年3月31日現在)
該当ありません。
3. その他有価証券で時価のあるもの (平成17年3月31日現在)
該当ありません。
4. 当該事業年度中に売却した満期保有目的の債券 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
該当ありません。
5. 当該事業年度中に売却したその他有価証券 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
該当ありません。
6. 時価のない有価証券の主な内容及び貸借対照表計上額 (平成17年3月31日現在)

満期保有目的の債券	-
非上場外国債券	-
その他有価証券	103
非上場国内株式 (店頭売買株式を除く)	12
非上場外国株式	-
その他の非上場国内証券	30
その他の非上場外国証券	60

7. 保有目的を変更した有価証券
該当ありません。
8. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額 (平成17年3月31日現在)
該当ありません。
9. 子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの (平成17年3月31日現在)
該当ありません。

・ 当事業年度

1. 売買目的有価証券（平成18年3月31日現在）
該当ありません。
2. 満期保有目的の債券で時価のあるもの（平成18年3月31日現在）
該当ありません。
3. その他有価証券で時価のあるもの（平成18年3月31日現在）
該当ありません。
4. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券（自平成17年4月1日 至平成18年3月31日）
該当ありません。
5. 当事業年度中に売却したその他有価証券（自平成17年4月1日 至平成18年3月31日）
該当ありません。
6. 時価のない有価証券の主な内容及び貸借対照表計上額（平成18年3月31日現在）
(金額単位：百万円)

満期保有目的の債券	-
非上場外国債券	-
その他有価証券	400
非上場国内株式（店頭売買株式を除く）	12
非上場外国株式	-
その他の非上場国内証券	250
その他の非上場外国証券	136

7. 保有目的を変更した有価証券
該当ありません。
8. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の償還予定額（平成18年3月31日現在）
該当ありません。
9. 子会社株式及び関連会社株式で時価のあるもの（平成18年3月31日現在）
該当ありません。

(金銭の信託関係)

前事業年度（平成17年3月31日現在）
該当ありません。

当事業年度（平成18年3月31日現在）
該当ありません。

(その他有価証券評価差額金)

前事業年度（平成17年3月31日現在）
該当ありません。

当事業年度（平成18年3月31日現在）
該当ありません。

(デリバティブ取引関係)

・ 前事業年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)

1. 取引の状況に関する事項

(1) 金融派生商品取引等に対する基本的取組み方針

当行が行う金融派生商品取引等は、業務に伴う為替リスク・金利リスクをヘッジする目的のみに限定しています。

(2) 取引内容

当行は、金利スワップ、通貨スワップ、先物外国為替予約といった金融派生商品取引等を行っています。

(3) 金融派生商品取引等に関連するリスク

金融派生商品取引等には以下のリスクが存在します。

信用リスク

金融派生商品取引等の相手方の経営悪化や倒産などにより、契約どおりに取引を履行できなくなったときに損失を被るリスクです。

市場リスク

金融派生商品取引等の金融商品の価値(取引の時価)が金利・為替などの変動により増減することによって損失を被るリスクです。

(4) 上記リスクに対する当行の対応について

信用リスク

取引相手先毎の金融派生商品取引等の時価および信用リスク額、取引相手先の信用状態を常時把握・管理のうえ、取引相手先としての適格性判断に活用しています。

市場リスク

当行は金融派生商品取引等をヘッジ目的のみに限定しており、金融派生商品取引等の市場リスクはヘッジ対象取引(資金調達取引や貸付取引)の市場リスクと原則として相殺されています。

金融派生商品等信用リスク額(平成17年3月31日現在)

(金額単位:億円)

	契約金額・想定元本金額	信用リスク額
金利スワップ	23,098	572
通貨スワップ	41,679	7,063
先物外国為替予約	13	0
その他金融派生商品取引	-	-
ネットイングによる信用リスク削減効果		1,680
合計	64,791	5,956

(注) 信用リスク額は国際統一基準によって算定したものです。

2. 取引の時価等に関する事項

(1) 金利関連取引(平成17年3月31日現在)

(金額単位:百万円)

区分	種類	契約額等	時価	評価損益
取引所	金利先物	-	-	-
店頭	金利先渡契約	-	-	-
	金利スワップ	-	-	-
	その他	-	-	-
	合計	-	-	-

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。なお、ヘッジ会計が適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引 (平成17年3月31日現在)

(金額単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	時価	評価損益
取引所	通貨先物	-	-	-
店 頭	通貨スワップ	-	-	-
	為替予約	-	-	-
	その他	-	-	-
	合 計	-	-	-

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の貸借対照表表示に反映されているものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引
該当ありません。

(4) 債券関連取引
該当ありません。

(5) 商品関連取引
該当ありません。

(6) クレジットデリバティブ取引
該当ありません。

・ 当事業年度（自平成17年4月1日 至平成18年3月31日）

1. 取引の状況に関する事項

(1) 金融派生商品取引等に対する基本的取組み方針

当行が行う金融派生商品取引等は、業務に伴う為替リスク・金利リスクをヘッジする目的のみに限定しています。

(2) 取引内容

当行は、金利スワップ、通貨スワップ、先物外国為替予約といった金融派生商品取引等を行っています。

(3) 金融派生商品取引等に関連するリスク

金融派生商品取引等には以下のリスクが存在します。

信用リスク

金融派生商品取引等の相手方の経営悪化や倒産などにより、契約どおりに取引を履行できなくなったときに損失を被るリスクです。

市場リスク

金融派生商品取引等の金融商品の価値（取引の時価）が金利・為替などの変動により増減することによって損失を被るリスクです。

(4) 上記リスクに対する当行の対応について

信用リスク

取引相手先毎の金融派生商品取引等の時価および信用リスク額、取引相手先の信用状態を常時把握・管理のうえ、取引相手先としての適格性判断に活用しています。

市場リスク

当行は金融派生商品取引等をヘッジ目的のみに限定しており、金融派生商品取引等の市場リスクはヘッジ対象取引（資金調達取引や貸付取引）の市場リスクと原則として相殺されています。

金融派生商品等信用リスク額（平成18年3月31日現在）

（金額単位：億円）

	契約金額・想定元本金額	信用リスク額
金利スワップ	25,003	502
通貨スワップ	44,152	3,969
先物外国為替予約	60	1
その他金融派生商品取引	-	-
ネッティングによる信用リスク削減効果		2,081
合計	69,217	2,392

（注）信用リスク額は国際統一基準によって算定したものです。

2. 取引の時価等に関する事項

(1) 金利関連取引（平成18年3月31日現在）

（金額単位：百万円）

区分	種類	契約額等	時価	評価損益
取引所	金利先物	-	-	-
店頭	金利先渡契約	-	-	-
	金利スワップ	-	-	-
	その他	-	-	-
	合計	-	-	-

（注）上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。
なお、ヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引(平成18年3月31日現在)

(金額単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	時価	評価損益
取引所	通貨先物	-	-	-
店 頭	通貨スワップ	-	-	-
	為替予約	-	-	-
	その他	-	-	-
	合 計	-	-	-

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の貸借対照表表示に反映されているものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引
該当ありません。

(4) 債券関連取引
該当ありません。

(5) 商品関連取引
該当ありません。

(6) クレジットデリバティブ取引
該当ありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当行は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度および退職一時金制度を設定しております。

2. 退職給付債務に関する事項

(金額単位：百万円)

区分	第6期末 (平成17年3月31日)	第7期末 (平成18年3月31日)
退職給付債務 (A)	14,226	14,397
年金資産 (B)	3,514	4,184
未積立退職給付債務 (C)=(A)+(B)	10,711	10,213
会計基準変更時差異の未処理額 (D)	-	-
未認識数理計算上の差異 (E)	-	-
未認識過去勤務債務 (F)	-	-
貸借対照表計上額純額 (G)=(C)+(D)+(E)+(F)	10,711	10,213
前払年金費用 (H)	-	-
退職給付引当金 (G) (H)	10,711	10,213

(注) 厚生年金基金の代行部分を含めて記載しております。

3. 退職給付費用に関する事項

(金額単位：百万円)

区分	第6期末 (平成17年3月31日)	第7期末 (平成18年3月31日)
勤務費用	594	582
利息費用	279	283
期待運用収益	48	52
過去勤務債務の費用処理額	-	-
数理計算上の差異の費用処理額	36	563
会計基準変更時差異の費用処理額	-	-
その他(臨時に支払った割増退職金等)	-	-
退職給付費用	862	249

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

区分	第6期末 (平成17年3月31日)	第7期末 (平成18年3月31日)
(1) 割引率	2.0%	2.0%
(2) 期待運用収益率	1.5%	1.5%
(3) 退職給付見込額の期間配分法	期間定額基準	期間定額基準
(4) 過去勤務債務の額の処理年数	-	-
(5) 数理計算上の差異の処理年数	発生年度に一括償却	発生年度に一括償却
(6) 会計基準変更時差異の処理年数	-	-

(関連当事者との取引)

前事業年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
関連当事者との取引において記載すべき重要なものではありません。

当事業年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
関連当事者との取引において記載すべき重要なものではありません。

(重要な後発事象)

前事業年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
該当ありません。

当事業年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
該当ありません。

附属明細表

第7期(自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)

1. 有形固定資産等明細表

(金額単位:百万円)

資産の種類		前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額	当期償却額	差引期末残 高	摘要
有形 固定 資産	土地				9,556			9,556	
	建物				19,496	11,445	532	8,050	
	動産				3,752	3,000	159	751	
	建設仮払金				362			362	
	計				33,167	14,446	692	18,720	
無形 固定 資産	権利金等				66	61	1	5	
	ソフトウェア				3,281	796	261	2,484	
	保証金				174			174	
	計				3,522	857	262	2,665	
繰 延 資産	債券発行差 金	4,189	799	1,237	3,751	1,218	447	2,532	
	債券発行費	3,067	1,217	851	3,433	1,738	1,053	1,694	
	計	7,256	2,017	2,089	7,184	2,956	1,500	4,227	

- (注) 1. 土地、建物、動産の3つの項目は、貸借対照表の「土地建物動産」に計上しております。
 2. 有形固定資産及び無形固定資産の金額は資産総額の1%以下であるため、「前期末残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

2. 債券明細表

銘柄	発行年月日	前期末残高	当期末残高	利率	担保	償還期限	摘要
政府保証付 日本輸出入銀行 第37、39、40 42次債券	平成8年5月～ 平成9年12月	百万円 371,824 (JPY 60,000百万) (USD 800,000千) (EUR 1,044,863千) (GBP 400,000千)	百万円 231,280 (EUR 1,044,863千) (GBP 400,000千) [82,064]	% 5.750～ 8.000	一般担保	平成19年2月～ 平成20年6月	
政府保証付 国際協力銀行 第1、3～13次債券	平成11年11月～ 平成18年3月	759,430 (JPY 60,000百万) (USD 4,250,000千) (EUR 1,750,000千)	982,683 (JPY 60,000百万) (USD 5,650,000千) (EUR 1,750,000千) (THB 3,000,000千) [117,470]	0.350～ 7.000、 LIBOR + 0.0625	一般担保	平成18年12月～ 平成28年3月	
国際協力銀行債券 第1～4、6、8、10 12～23回債券	平成13年10月～ 平成18年3月	620,000 (JPY 620,000百万)	830,000 (JPY 830,000百万) [100,000]	0.510～ 2.090	一般担保	平成18年9月～ 平成37年12月	
合計		1,751,254	2,043,963				

- (注) 1. 「前期末残高」および「当期末残高」欄の()書きは外貨建債券の金額であります。
 2. 「当期末残高」の欄の[]書きは、1年以内に償還が予定されている金額であります。
 3. 決算日後5年以内における償還予定額は以下の通りであります。

(金額単位: 百万円)

1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
299,534	165,674	114,947	167,470	285,265

4. 債券の信託型デット・アサンプション(債務履行引受契約)に係る偶発債務

下記の債券については、銀行等との間に締結した債券の信託型デット・アサンプション契約(債務履行引受契約)に基づき債務を譲渡しています。従って、同債券に係る譲渡債務と同契約による支払金額を相殺消去していますが、同債券の債権者に対する債券償還義務は債券償還時まで存続します。

銘柄	譲渡金額(百万円)
第5回国際協力銀行債券	50,000
第7回国際協力銀行債券	60,000
第9回国際協力銀行債券	50,000
第11回国際協力銀行債券	50,000

3. 借入金等明細表

(金額単位:百万円)

区分	前期末残高	当期末残高	平均利率(%)	返済期限	摘要
借入金	5,359,276	4,906,569	1.63		
財政融資資金借入金	5,263,934	4,844,321	1.62	平成18年4月～	
簡易生命保険資金借入金	95,342	62,248	2.12	平成28年3月	

- (注) 1. 「平均利率」は、期末日現在の「利率」及び「当期末残高」により算出(加重平均)しております。
2. 借入金の決算日後5年以内における返済額は次のとおりであります。

(金額単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
借入金	769,046	1,060,140	1,140,132	599,829	498,504

4. 資本金等明細表

(金額単位:百万円)

区分	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	摘要
資本金					
国際金融等勘定資本金	985,500			985,500	
準備金					
国際金融等勘定準備金	676,258	32,889		709,148	(注)

- (注) 当期増加額は、国際協力銀行法第44条第1項の規定に基づき積み立てたものであります。

5. 引当金明細表

(金額単位:百万円)

区分	前期末残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高	摘要
			目的使用	その他		
貸倒引当金						
一般貸倒引当金	46,980	40,872		46,980	40,872	
個別貸倒引当金	108,840	25,845	32,348	9,088	93,249	
うち非居住者向け債権	108,840	25,845	32,348	9,088	93,249	
特定海外債権引当勘定	15,332	13,841		15,332	13,841	
賞与引当金	595	632	595		632	
計	171,749	81,192	32,944	71,401	148,596	

- (注) 当期減少額(その他)欄に記載の減少額はそれぞれ次の理由によるものであります。

一般貸倒引当金……………洗替による取崩額
 個別貸倒引当金……………主として債務者の業況改善による取崩額
 うち非居住者向け債権分…主として債務者の業況改善による取崩額
 特定海外債権引当勘定……………洗替による取崩額

(2) 主な資産及び負債の内容

第7期末(平成18年3月31日現在)の主な資産及び負債の内訳は、次のとおりであります。

資産の部

預 け 金 日本銀行への預け金 300,737 百万円及び他の銀行への預け金 336,044 百万円であります。

未 収 収 益 未収貸付金利息 80,420 百万円その他であります。

その他の資産 仮払金 116 百万円その他であります。

負債の部

未 払 費 用 未払借入金利息 18,710 百万円、未払債券利息 26,262 百万円その他であります。

その他の負債 仮受金 1,818 百万円その他であります。

(3) その他

該当事項なし